

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2773500604		
法人名	社会福祉法人 長生会		
事業所名	グループホーム 美野の里		
所在地	大阪府南河内郡太子町山田2558番地		
自己評価作成日	平成22年4月14日	評価結果市町村受理日	平成22年7月6日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.osaka-kaigohoken-kohyou.jp/">http://www.osaka-kaigohoken-kohyou.jp/</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	財団法人大阪府地域福祉推進財団 ファイン介護サービス情報センター		
所在地	大阪府大阪市中央区谷町5丁目4番13号 大阪府谷町福祉センター		
訪問調査日	平成22年5月27日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

大阪平野を一望できる場所に位置し、良い意味で「田舎」であることから、ゆったりとした時間を過ごして頂くことを一番に考え、家庭的な雰囲気を作り出すため、居室にはなじみの物を出るだけ持ち込んで頂くように努めています。  
また、職員が営むみかん園にみかん狩りに出かけたり、町で月1回開催される「聖徳市」に出かけたりと、地域へ出かけることにも力を入れております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

社会福祉法人が運営し平成15年に開設された2ユニットのグループホームで、母体の特別養護老人ホームとは別棟になっています。ホームの居間兼食堂からは目の前に大阪南部の平野が一望でき、晴れた日には大阪湾から神戸の山並みまで展望できる風光明媚なところに建てられています。また二上山の麓で緑に囲まれた環境で、毎年8月1日に行われるPLの花火芸術も眼下に見られる一等地にあります。各居室には洗面所・トイレが設置され、プライバシーが守られるよう配慮されています。食堂の横の和室には掘り炬燵もあるなど、和と洋を折衷した家庭的な暮らしがうかがえます。居心地の良い居場所「第二の家庭」を目標に、ゆったりと過ごせ安定した日常生活が送れるよう支援していることが、利用者の穏やかな表情からもうかがわれます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		り 取 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		り 取 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人理念に加えて、下記のとおり理念を掲げている。 笑顔 笑いの絶えない、あたたかい場所にします 心 認知症や介護の理解を深め、安心して生活していただける場所にします 交流 地域に出かけ、また、気軽に足を運んでいただける場所にします	ホームの理念を廊下の見えやすいところに掲示するほかパンフレットにも明示しています。理念については職員に会議等で徹底し、日々のケアの中でその実現に向け取り組んでいます。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣地域で開催されるイベントには、積極的に参加している。一方、地域の老人会や、ボランティア団体等の訪問や慰問も積極的に受け入れている	2ヶ月に1回老人クラブの方々による歌やお手玉などのボランティアに来てもらっています。毎月1回町で開催される「聖徳市」に出かけるほか、季節の楽しみとして近くの高校での花見やみかん狩り、また遠足等では遠出をしています。「だんじり祭り」の時は地域の方がホームに来てくれて、地域の方々と交流しています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	町より委託の在宅介護支援センターの事業として地域の住民対象に認知症をテーマとして講座を行っている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	委員全員参加は難しいが、活発な意見交換は出来ており、提案事項についても、前向きに検討し、サービスに活かせる努力をしている	運営推進会議は「地域密着型サービスの運営に関する委員会」委員・地域包括支援センター職員・民生委員・利用者家族・老人クラブ・介護相談員等の参加のもと開催しています。参加者から出された意見や助言をホーム運営に反映し、サービス向上に活かしています。しかし、委員の日程調整がつきにくく、開催が2ヶ月に1回の割合とはなっていません。	運営推進会議の開催については概ね2ヶ月に1回の開催に努められることが望まれます。また欠席者に対しては議事録を配付するなどの配慮が望まれます。運営推進会議規約に守秘義務に関する項目を追加されてははいかがでしょうか。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	監督庁である太子町の担当職員とはコミュニケーションを密にして頻繁に情報交換を行っている	町役場とは日ごろから気楽に相談できる窓口を確保しています。また町からの情報があればメールで配信されてきます。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	入居者の居室の扉には、鍵をかけていない。施設玄関の出入口は、グループホーム入居者の特徴等を配慮して、電子キーを採用している	身体拘束をしないケアを掲げ、職員全員で取り組んでいます。ホーム玄関のすぐ前が斜面になっているため、玄関は電子キーを採用していますが、外出を要望される利用者にはスタッフが対応しています。居室からは日当たりの良い開放感のあるベランダへいつでも出られるようになっており、散歩することができます。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人に虐待防止委員会があり、そこに参加している。また、研修でもテーマに取り上げている		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	法人として社会貢献事業に参加しており、会議等で報告している		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	書類の文字サイズを大きくしたり、その場で契約を迫ったりせず、十分に時間を作り、質問等を受けている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	各階に投書箱を設置し、そこに意見を入れていただくようにしている。ご家族が面会に来られた際は出来る限り最近の様子など話をするようにしている。また、運営推進会議でご家族の意見等を聞くようにしている。	ホーム内に意見箱を設置すると共に、運営推進会議に利用者家族も参加され、意見・要望を伺っています。また、家族の面会時には要望や意見を聞く機会を設けるなど、話しやすい雰囲気作り心がけています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会議では意見を言いやすい雰囲気作り心がけ、現場主導で行えるよう意識している	月に1回グループホーム会議を開催し、職員から自由に発言や意見が出されています。また、管理者は年2回職員との個別面談の機会を設け、現場の意見を聞き話合っています。管理者と職員は気楽に話し合いができる雰囲気にあります。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	役職者等にそれぞれに役割分担を行うとともに、権限の委譲も行い、やりがいのある職場作りを行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	日常業務の中では勿論のこと、ベテラン職員がリーダーとなつての職場内研修を定期的実施し、職員意識啓発に努めている。(職員の質は、自らが、向上心を持って自発的に学習に取り組む事により成果が得られることを踏まえ、研修では、このような向上心をはぐむ事を大事にしたいと考える)		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	現在は、近隣の施設が集まる「富田林事業者連絡協議会」に加入して、関係事業者のノウハウも取り入れている。また、同様に羽曳野市のグループホームの集まりにも参加している		
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	アセスメントにおいては、ご本人と取り巻く環境の過去と現在を伺い、本人理解に努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居後もいつでも面会に来られるよう対応し、また、来られない場合は様子を伝える努力を行っている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	マッチングに関しては職員の意見交換を活発に行い、カンファレンスも行う		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご利用者は、人生の大先輩との認識は必ず徹底し、いろいろ教えていただいている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族も支援者としてご本人に向きあい、共に生活の質(QOL)の向上をめざす		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面接は1度ではなく、事業所に来ていただくこと、家庭に赴き、生活の様子を伺うことは最低限行っている	自宅で生活していた時の友人が利用者を訪ねて来られたり、毎週日曜日、教会のミサに出席して友人・知人と交流している利用者もおられます。また知人にお便りを出される方など、馴染みの人との関係を大切に継続的な支援をしています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の「人間関係」構築を大切に考え、職員も「環境」として意識し関わっている		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後は疎遠になりがちだが、相談等に応じている		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	センター方式の一部導入により、ご利用者の過去から現在・未来を把握し、ご利用者本位に努めている	利用者一人ひとりの希望や意向の把握に努め、利用者や家族の意向を尊重した支援に心がけています。今後は、さらに職員が日々の関わりの中で気付いたこと等を記録に残し、アセスメントに反映させていくことを期待します。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	現在を知るには過去は必ず知る必要があり、重点的にヒヤリングを行っている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常生活動作(ADL)の把握は定期的に行い、ケアプラン作成の資料としている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご利用者の主体性を重視したアセスメントを行い、家族や、必要な関係者と話し合い介護計画を作成している	利用者・家族から意見や希望を聞き、介護計画を作成しています。介護計画の見直しは6ヶ月毎に行っています。利用者の暮らしの状況を細かく分析しアセスメントを行った内容を介護計画書に記載されていますが、介護計画には具体的な個別援助内容の記載が十分でないものもあります。	介護計画書の援助内容については、日々のサービス項目を具体的に明記することが望まれます。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている落とし込み、生活歴とうの充実とアセスメントに反映させることを期待します。	個々にケース担当を付け、重点的に状態把握を行うことと、それを会議で更に共有している		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者やその家族等からの要望や状態変化に対しては、基本的には、入居者本位を大事にしている		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域に出かけること、地域の方を迎え入れること、両面で地域とのつながりを意識している		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者の受診医療機関については、本人及び家族の希望を最大限重視している。なお、施設内で入居者に健康上の異常が見られた際は、嘱託医の受診を受けている	入居以前からのかかりつけ医の受診か、併設施設の診療所医師の受診かを利用者や家族と話し合い、希望する医療機関を確認しています。併設の診療所は週3日診察があり、往診も受けられます。かかりつけ医の受診に家族が付き添えないときは職員が付き添っています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護と看護の違い、得手不得手を理解したうえで、看護職とチームを組んでいる		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	協力病院との連携はもちろん、各院の地域医療連携室の担当者と密に連絡を取り、情報交換を行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居者が重度化してきた場合は、かかりつけ医等のアドバイスを受けながら、家族の考え方を伺って、一定の方針を確認する事としている。そしてこの方針は、職員会議等を活用して全員に説明し、施設職員が共通認識のもとに一体となって対応できるようにしている	重要事項説明書のなかでホームの利用対象とならない疾病や入院等医療関係について定め、利用者本人・家族に説明し同意を得ています。利用者が重度化してきた場合等のケアについて職員も共通認識のもとに対応しています。	今後の課題としての終末ケアについて、「看取りのマニュアル」や確認書を整備して職員研修を行うなど、ホーム全体で取り組む体制づくりが望まれます。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	研修で、リスクマネジメントや、心肺蘇生法(CPR)訓練について取り入れており、定期的に訓練を行っている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災時を想定した避難訓練は、消防署の指導の元に、定期的実施している。又、地域の消防団との連携にも努めている	火災報知機と消火器が設置され、消防署への通報装置もあります。スプリンクラーは今年度計画で設置することとしています。併設施設と一緒に年2回避難訓練を実施しています。法人理事長は消防団に参加しています。非常災害時用備蓄は厨房委託業者に契約で依頼しています。	非常災害時用備蓄について、管理を委託業者にまかせきりにするのではなく、ホームとしても定期的に在庫等の点検・確認を行うことが期待されます。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者は、これまでの長い人生を、社会や家族の為に懸命に尽くしてこられた方々であるとの認識を持って、それぞれの方々の人格の尊重については、最重視して、個人情報軽はずみな発言などはしないよう、職員には徹底している。入居者の個人情報について、当然のこととして、関係者以外には漏れる事の無いよう、各職員には記録等の管理の徹底を図っている	職員の態度や言葉かけは明るく丁寧で、やさしい雰囲気です。職員一人ひとりが研修会や会議を通じてプライバシーに関する意識向上を図り、利用者を尊重した対応に心がけています。個人記録等は利用者の目に触れないよう配慮しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご利用者のペースに合わせて生活リズムを作り、寄り添うことで本人の思いをくみ取れるよう努力している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職場の運営方針については、入居者を主役にしており、これは、介護サービス施設運営の大原則と考えている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	特に禁止事項は設けず、希望に沿う形を目指している		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備や後片付け等は、従事できる方は、本人の自発的参加のもとに、職員と共同で行っている	食事については、3食とも併設施設の厨房から調理したものがホームに届けられますが、盛り付けや後片付けなどについては利用者と一緒に行っています。月に1回近隣のスーパーへ食材購入に出かけ、ホーム内で調理をし希望のメニューに応じています。職員も一緒に食事をし、介助が必要な利用者には職員が傍に付いて、同じ食事をしながら楽しい時間を共有しています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	施設の管理栄養士と連携して、それぞれの入居者の体重等も配慮しながら適正な栄養摂取や水分補給等に努めている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	水分の十分な補給と共に、食後の口腔ケアについては義歯の隙間等も意識している		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを把握するため、チェック表を作成し、トイレでの排泄を目指している	排泄パターンをチェックし、入居者のサインを見落とさないように声かけ・誘導を行い、自立に向けた支援がなされています。リハビリパンツから布パンツに改善された利用者もいます。全居室にトイレが設置されていて、自室のトイレ使用を心がけています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	可能な限りトイレに座り、排便を促し、水分補給や運動とともに取り組んでいる		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入居者の入浴は、週2回を基本としてローテーションを組んで実施しているが、該当日以外の日での入浴を強く希望された場合は、その希望に応じている	基本は週に2回の入浴になっていますが、入浴日以外でも希望する利用者には入浴が可能な体制はあります。一方、入浴を嫌がる利用者には無理強いをしないで時間や日を変えるなど、安心して入浴してもらう取組をしています。今般、浴室に1台のリフトを設置し、利用者が安全に入浴できるようにしています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	前日の睡眠状況やその時の様子で休息を促したり、温度・布団等にも気を付けている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	状態の変化については医師(Dr)に都度報告し、指示を仰いでいる。薬については一覧にしてケース記録にはさみ、確認できるようにしている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	こんな事がしたい という希望をもっと言っていただけるような関わりが大切と考えている。しかし、なかなかご利用者から声は上がらず、今現在はこちらからの提案がほとんどである		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気にもよるが、散歩やアクティビティーの一環で、屋上へ出たりドライブへ出たりしている。また、散歩の希望にも、できるだけタイムリーにお応えできるよう、心掛けている	併設施設の周りや近隣の神社までの散歩をしたり、ホームの屋上での日光浴を楽しんでいます。月1回利用者と一緒に近くのスーパーへ車で食材の買物に行っていますが、そのことを利用者は楽しみにしています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	施設内では機会もないので、外出時に支払いをしていただいている。所持については、本人・ご家族同意の上で行っている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	取次ぎを行い、関係性を大切にしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	環境整備はその時、その方に合わせて行っており、特に空調は、効き過ぎないように配慮している	居間兼食堂は目の前に大阪南部の平野が一望に開けていて、採光も良く落ち着いた雰囲気になっています。食堂以外にも掘りごたつのある和室や玄関を入ったところに広々とした居間があり、ソファでゆったりとテレビ観賞したり談笑したりすることができます。廊下の壁面には写真や手作りの花菖蒲の折り紙が飾られ季節感が感じられます。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアの中でも座れる場所を多く作り、食堂や居室でも独りになれるよう支援している		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居に対する不安を和らげる事を期待して、とりわけ、入居時は、それまでの生活で使用していた家具や生活用品については、施設生活でも継続して使用するよう促している。併せて、これら家具の配置についても、これまでの状況に出来るだけ近づけるように工夫している	ホームでは、各居室にベッド・収納タンスを用意していますが、仏壇や配偶者の遺影、家族の写真、愛用のミシンや机等、利用者の使い慣れた品々が持ち込まれ、利用者の生活背景などを理解したその人らしい居室になるよう支援しています。 また、各居室には洗面所・トイレがついており、プライバシーが守られています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	可能な限り制限は設けず、ご自身で考え行動できる支援をしている。ただし、困っておられる時にはすぐに近くに寄れるよう心がけている		